

Title	戦後の経済的革新 (五、完)
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.5 (1916. 5) ,p.628(42)- 637(51)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160501-0042

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

戦後の経済的革新(五完)

阿部 秀助

七

由來、獨逸の拓務省なるものが現時の「ベトマン・ホルツェヒ」内閣にとりては鬼門視せられし如く、過去三十年に亘れる同國の殖民政策も亦た一面に於て常に不安と動搖とに襲はれしことは、同國議會場裡の論争が屢々吾人に示せし處にして、彼の「エルツベルガー」(中央黨)「ホハ」(社會民主黨)兩代議士の金剛石專賣事業に對する非難の如き僅かに其一端を洩らせるものに過ぎざりしが(註)

註 兩者の攻撃の演説は千九百十二年五月二日、獨逸帝國議會に於てなされしものにして、其議論の中心は獨逸南亞に於ける金剛石産出額の過超が著しく金剛石其者の市價を低落せしむるに至りしと云ふ點にあり、今此攻撃の發生せし前年に於ける同專賣會社の營業報告を見るに「ルアリツク」灣附近の金剛石坑十六箇所より採掘せられし金剛石の産出額は七十九萬八千八百六十五「カラット」半にして其價格二千一百三十八萬九千四百五十六兩にして之れが仕向先は「アントロープ」アムステルダムにして當時獨逸國內にて消費せられしは僅かに全産出額の三「パーセント」八に過ぎず、尙ほ同年に於ける同會社の純益は六十八萬七千九百六十一兩にして、其配當は十「パーセント」なりしものなりとす(Schulhess Europäischer Geschichtskalender. 28 Jahrgang. s. 133 及拙著獨逸對列強の抗争頁五七―五八)

更に今回の戦役に於て獨逸殖民地が英國の殖民地に比して遙かに無意義なる状態を呈するに至りしことは、獨逸をして他日、其殖民政策に一轉化を興ふるの必要を感せしめ、斯くて此國は、最近「ヤフエー」が論せる如く直接、間接、自國の武力により保護せられ得る地方に専ら其勢力を扶殖するに至る可し(註)此點よりして「バルカン」殊に土領「メソポタミア」が著しく注意の焦點化すると共に、更に獨逸にとりて是等の地方の必要視せらるゝ所以は、實に同國內に缺乏せる物資を此方面に求め得るの一事なりとす、即ち其第一は獨逸の戦時工業上、最も必要にして最も缺乏せる銅及石油にして、先づ前者に就きて注意す可きは東部「セルビア」に於ける「ボオル」の銅鑛にして、同銅坑は歐洲諸國の銅山中其産出額に於て第二位を占め、五六年前には白耳義の一會社之れが採掘に従事せしも、年々損失を重ねるのみなりしが、今を去る四年前突然、大鑛床發見せられ、開戦前迄は専ら米國方面に輸出せられしも

のなりとす、而して獨逸は現時の戦役に於ては勿論戦後にありても必ずや之れが利用方法を講ずるに至る可し。(註二)

註一 E. Jaffe, Volkswirtschaft und Krieg, s. 14.

註二 Dr. H. v. Sauter, Die wirtschaftliche Entwicklung der Balkanstaaten. (Die Balkanfrage, s. 190-191)

更に後者たる石油に就きては「バルカン」方面には「ルーマニア」あるも、同國の態度は必ずしも常に獨逸と一致するものにあらざるを以て、獨逸は他に自國用の油田を獲得せざる可からず、此點に於て注意す可き地方は小亞細亞の沿岸地方「アルメニア」、「シリア」殊に「メソポタミア」の大油田となす、今「ドクトル・カール・アントン・シュエーファー」が「獨土友情論」中に掲げし地圖によりて之れが所在地を見るに「バグラット」以北に於て「ニムルート」に近く「バグラット」鐵道に沿ふて「ハム・マム・アリー」及「ガヤラ」の大油田あり、次に「キルクック」に近く「キルクック」の油田あり、其他「バグラット」鐵道の支線「計畫線」附近には「ツツクルマトリ」、「キフク」、「カスリ・シリシ」、「メンデリ」等の油田あり。(註)

註 Dr. C. A. Schäfer, Deutsch-türkische Freundschaft, s. 28.

而して是等油田の探掘權を開戦前即ち千九百十四年六月末に獲得せし一個の放資團は英國側と獨逸和蘭側とに分たれ、前者は「アングロ・ペルシアン・オイル・コムパニー」の經營者たる「ダルシー」氏によりて代表せられ、後者は獨逸銀行及王立和蘭石油會社の聯合たる「土耳其石油會社」なりとす、蓋英國の海軍が石炭に代ゆるに石油を以て燃料となすに至りし結果、同國政府は一昨年夏より大規模の戦時石油貯藏計畫を開始し、斯くて自由黨の名士「ムーレー」卿の如きは「メキシコ」に於て石油事業を營める「ピアソン」會社の委託によりて、専ら英國の戦時用に供せらるゝ油田を「エックソドル」及「コロンビア」方面に求めしことあり、而して英政府の手は更に波斯方面に現はれ、所謂「アングロ・ペルシアン・オイル・コムパニー」の監督權買收問題を惹起すに至れり、其買收價格は三四百萬磅と稱せらる、元來、此會社は千九百九年即ち英露協約後、滿三ヶ年を経過せざる際に創立を見しものにして、同會社は千九百六十年に至る迄、波斯全土、但「カスピ」海畔の北部五州及露境を除く、に於ける探油の獨占權を有せるものにして、目下南部波斯に於て探油中の主要なる油田は「モハマラ」の東北部にある「マイダニ」油田にして、此油田は水運の便多き「カルン」河に近く、加ふ

るに經驗ある技師及勞働者の多數後印度方面より分遣せられしを以て、其事業の如き更に大なる擴張を見るに至りしなる可し、只だ、メソポタミア方面に於ける「アングロ・ペルシアン・オイル・コムパニー」の特權(採油業及「シャット・エル・アラブ」の河口迄、土耳其の領土を通過して石油輸送管を設置する權利)は不幸、今回の戦役の爲めに中斷するに至りしを以て、獨逸は此機會を利用して専ら之れが權利の獲得を務むると共に、併せて是等の油田より採油せられしものを「バグダット」鐵道及自國海軍の燃料に使用するは勿論、又、戦時に於ける一般の準備用に供するに至る可し。

更に第二の問題は農産物殊に穀物及綿花にして、此點に關し「バルカン」の諸國殊に「ブルガリア」及「セルビア」の如きは何れも農業の程度極めて幼稚なる状態に存するに不拘現に千九百十年「セルビア」方面に於ける人造肥料の輸入は六萬二千二百二「キログラム」なりしが、其翌年には減じて僅かに五千七百四十九「キログラム」となれり、尙ほ年々穀物の國外に輸出せられしもの「ブルガリア」にありては約一億三千萬法「セルビア」にありては六千萬法に達せり、更に以上の地方に於ける牧畜業は穀物栽培の如く盛大ならざるも、尙ほ「セルビア」にありては年々約六萬頭の食牛を國

外に輸出し、「ブルガリア」も亦九年に一萬頭を土耳其方面の市場に輸出せしものなりとす、假りに以上の地方に於て獨逸が穀物補給の方法を講ずること能はずとなすも同國は更に「メソポタミア」方面に於て之れが努力を繼續するに至るべし、而して同方面をして昔時の状態に復歸せしめん爲め印度及埃及に於ける回教徒の移住を奨勵する策は既に英の土木技師「ウ・カル・コックス」の講ずる處なりしが、最近此方面の開拓問題に最も多く着眼せしは獨逸にして、例者、土耳其領内にありて、直接、獨逸人の手になれる最初の灌漑事業と稱せらる、「コニア」平原約五萬「ヘクタール」の事業の如き千九百十三年完成、其翌年より實際の經營に移れり、而して此事業に關する出資者は「アナトリア」鐵道會社及「フランクフルト・アム・マイン」の「ホルツマイン」會社にして、其出資額は二千萬法なりとす、これが爲めに從來の收穫高は約十倍の増加を見るに至る可しと云ふ、尙ほ他に斯くの如き方法を施すに於ては「メソポタミア」方面より年々一百万噸の小麥を産出せしむることは必ずしも難事にあらざる可しと、更に戦後の獨逸に於て痛切に感ぜらるゝ問題は綿花の供給地問題にして之れより先き同國にありては北米合衆國に於ける綿花生産額が既に増加の頂點

に達せるを觀じて専ら自國の殖民地を之れが栽培地に供せしが、今回の戦役と共に水泡に歸せしを以て、爾後は専ら一朝有事の際に自己の武力により擁護し得る「メソポタミア」方面に之れが供給地を撰定するに至る可し、現に「スミルナ」の背地及「キリキッシュ」平原の産出額の如きは灌漑事業の結果として著しく増加するに至り、殊に後者の方面に於ける之れが産額の増加は既に千九百五年を以て「ドイツ・レブンチニッセ・バウムウォール・ゲベルンシャフト」の創立を見るに至り、同會社は其初め専ら棉花の買入に従事せしが、其後「キリキッシュ」平原の「オスマニエ」附近にて直接之れが栽培を開始するに至り、其資本金は其初め十五萬麻なりしが漸次増加して七十萬麻となり、今日にては其支店「アダナ」及「スミルナ」の兩方面にありて本國方面との取引に従事せり、其他、將來之れが栽培地として矚目せらるゝ地方は「チャラ」及「アドエム」の流域三十萬「ヘクタール」、「テグリス」の流域百十萬「ヘクタール」、「ユーフラート」の流域百二十萬「ヘクタール」、「シヤトエルアラブ」の流域二十萬「ヘクタール」等なりとす、之れを要するに以上の方面に於ける獨逸の棉花栽培は同國の戦後に於ける事業中殊に顯著なる意義を有するものなりと信ず。(註)

註 Dr. C. A. Schuler, s. 16-26.

八

戦後の獨逸にして眞に土耳其の將來を政治的に經濟的に強大ならしめんと欲せば、寧ろ人文的、經濟的政策に之れが解決を求めざる可からず、彼の軍政改革の如きは僅かに土耳其革新事業の一部分に過ぎざるものなりとす、而して土耳其の經濟状態は遙かに歐洲列強に及ばざると共に、其人口も亦稀薄なるを以て、將來の土耳其を盛大に赴かしむる一方法としては、先づ能力ある移民を歓迎し、之れによりて其農業を改善し、文明の向上を求むるの覺悟なからざる可からず、此點に於て吾人の注意に上るものを「チオニスム」の運動となす、而して此運動たるや、最近「ドクトル・ダニエル」が「Der Zionismus ist nicht viel mehr als eine politische Sternschuppe」と評せるよりも、更に深き意義に於て彼等同族間に存する民族的新生活の意義を表現するものなりと信ず。(註)

Dr. E. Daniels, Die Juden des Ostens (Preussische Jahrbücher, B. 160, s. 331).

而して猶太民族的國家の創始、即ち Palästina-Idee の發展は之れを其中心人物「テオド

ル・ヘルツルスに求めざるを得ず、彼れは埃國の生れにして、一時ノイエンプライエ
ン・プレッセ」の通信員として巴里に滞在せしことあり、其人格は新時代の猶太民
族を代表するものにして、彼れは千八百九十七年を以て「バーゼル」に「チオニスト」の
第一回の大會を催し、以て猶太民族の統一的精神を熾ならしめんとせり、爾來、今
日に至る迄、之れが會合を見しこと十一回、其本部を伯林に設け、「ドクトルオット」
ワールブルグ教授之れが會頭たり、尙ほ同會の基本財産は一千萬麻、年々收入約百
五十萬麻にして、専ら教育其他の事業に投せらるゝものなりとす、而して今日之れ
が會員たる者の數は十三萬、其中、獨逸は一萬、最近同國に於ける之れが運動の結果
として其數は更に増加するに至れり、斯くの如く獨逸が此運動の中心たることは
一面、同運動の中央機關たる「世界及獨逸に於ける此運動の機關たる「ユーデシエン
・ルンドシヤウ」其他四種の週報の發刊せらるゝによりて知るを得可し、更に實際的
方面に就きて見るに、最近「パレスチナ」方面に於ける猶太人の移住者は左の如し。

一八六七 年 一二五〇〇人
一八八一年 二五〇〇〇人

一八九七年 五〇〇〇〇人
一九一三年 一一〇〇〇〇人 (表)

表 K. Blumenfeld, Der Zionismus (Preussische Jahrbucher B 161. s. 95)

而して以上の大多數は「チオニスト」の運動の結果として發生せしものなりとす、
加ふるに彼等が一箇の資力ある農民をして此方面の開發に非常なる貢獻をなし
つゝあることは現に此附近を旅行せる基督教徒の多くが承認する處にして、土耳
其政府其者に對しても彼等の發達が寧ろ祝す可き理由は現に彼等の殖民地の一
つなる「ベタヒ・チクワ」に於て三十五年前に僅かに六千麻の納税をなせしものが千
九百十三年には既に其納税額が六萬八千麻に達するに至りしを見て知るを得可
し、之れを要するに戦後の獨逸と土耳其とが經濟的に人文的に此地方を開發せん
と欲せば先づ此運動を助成するの勇氣なかる可からざるなり。(完)